

## 編集後記 寄稿へのお礼と著作権

今号は、姫野洋司先生の追悼を特集しました。奥野武俊先生(大学 17 期)、池田良穂先生(大学 21 期)、西尾茂先生(神戸大学)には、お忙しい中ご寄稿頂きました。片山徹先生(大学 41 期)には、姫野先生のご経歴などをまとめて頂きました。姫野研究室を巣立った和田哲様(大学 37 期)、御手洗哲司様(大学 42 期)、沖本憲司様(大学院)、松山博志様(大学 45 期)、山中亮一様(大学 45 期)、古水就也様(大学 51 期)に、姫野先生とのそれぞれの思い出を寄稿頂きました。寄稿をお願いするに際して、目的や編集方針を明確にお伝えしなければお願いされた方々は「何を書けば良いのだろう?」と執筆に戸惑うことになるのだということを痛感致しました。気をつけねばなりません。

今号の表紙絵は、山下眞夫様(大学 16 期)より 2015 年に寄贈頂いた作品とさせていただきます。それは、寄贈当時の山下様とのメールのやりとりの中に、画題の『航跡』にまつわる姫野先生とのエピソードが添えられていたことを思い出したからで、山下様にそれをまとめて頂いて表紙絵紹介としました。

また、前号の田口賢士先生追悼特集をご覧頂いた同窓生からお便り(私信を含みます)を頂戴しました。鷗朋が同窓生間の情報の仲介役をしっかりと果たしていることを実感できて、うれしく思いました。加えて三宅孝治様(大学 22 期)にご尽力頂き、新たに田口先生との思い出もお寄せ頂きました。井上博之様(大学 6 期)からのお便りと向井濱治様(大学 8 期)の思い出を合わせて、田口先生追悼(前号から引き続いて)として掲載させていただきます。

寄稿いただきました皆様方に、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

ネット上の画像を引用する場合の著作権について、少し調べました。十分に理解できていませんが、引用するにあたっては『引用が必要である場合に限り』、『引用の引用はダメ』、『Web サイトからの引用の場合は Web サイト名と URL を明記』等、注意すべき厳しいルールが書いてありました。どうやら、「引用元を書いておけば OK」、というほど単純ではなさそうです。非営利でかつ同窓生に限定して配布する同窓会誌と言えども、画像引用時はルールと照合しておかなければならないと思った次第です。

鷗朋編集委員長 三宅成司郎(大学 30 期)

鷗朋会ニュース「鷗朋」第 31 号

2021 年 3 月 31 日

発行:鷗朋会 (けきほうかい)

〒599-8531 堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-7461

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

りそな銀行深井支店 普通口座番号 0060109

加入者名「鷗朋会」

KEKIHO

# 鷗朋 第 31 号



## 特集

姫野 洋司 先生を偲んで

巻頭言 「姫野先生を偲んで」 岩崎 泰典..... 1

追悼 姫野 洋司 名誉教授 片山 徹..... 2

コンピューターのユーザーだった姫野先生  
奥野 武俊..... 3

姫野先生を偲んで 池田 良穂..... 4

大阪府立大学工学部 鴟朋会 第 69 回理事会報告..... 5  
物故者連絡 ..... 5

辞書と万年筆と苦い薬湯  
: 姫野先生が遺してくださったもの 神戸大学 西尾 茂..... 6

姫野先生の思い出 和田 哲 ..... 7

姫野洋司先生を偲んで 御手洗 哲司..... 8

姫野先生の思い出  
沖本 憲司 松山 博志 山中 亮一..... 8

姫野先生との思い出 古水 就也..... 10

## 寄稿

表紙絵紹介

「ウェーキ構造と姫野教授の一喝」 山下 眞夫..... 11

前号から引き続いて

追悼 田口賢士 名誉教授 井上 博之..... 12  
向井 濱治..... 12

## 学内情報

校友会からのお知らせ ..... 13

編集後記「寄稿へのお礼と著作権」 三宅 成司郎

◆ 表紙絵 ◆  
「びわ湖・竹生島」  
山下 眞夫  
(大学 16 期)

◆ 表紙デザイン ◆  
平岡 良介  
(大学 49 期)

「鴟朋」編集委員 岸 光男 (大学 25 期) 竹田 太樹(大学 30 期) 三宅 成司郎(大学 30 期) 野口 利仁(大学 33 期)  
池田 和外(大学 35 期) 有馬 正和(大学 37 期) 新里 英幸 (大学 44 期) 中谷 直樹(大学 45 期)  
松山 博志(大学 45 期) 奥村 英晃(大学 46 期)

## 姫野先生を偲んで

大学 20 期 岩崎 泰典

昨年 8 月、姫野洋司先生がご逝去されました。ご遺族には心よりお悔やみ申し上げます。まだ 78 歳で、いつでも先生とお話しできると感じておりましたので非常に残念です。先生とのたくさんの思い出の中から、いくつかを紹介します。

私が船舶工学科第四講座に在籍したのは、大学 4 回生の昭和 46 年(1971)から修士修了の昭和 49 年(1974)の春の間でした。また阪神大震災の平成 7 年(1995)から平成 9 年(1997)の間は博士後期課程で、先生のご指導を頂きました。当時の第四講座の先生方は、田中教授、池田勝先生、姫野先生、助手に成り立ての奥野先生、事務の永井先生でした(修士 1 年からは事務に納家さんが在籍)。また、1 学年下には後の池田教授などの蒼々たるメンバーが在籍していました。学園紛争も終焉を迎え長髪の若者が殆どでしたが、姫野先生はがっちりした体格で当時は珍しい角刈り頭で個性を大いに発揮されていました。先生のヴィオラ奏者としての始まりはこの頃だと思いません。私が 4 回生の頃の先生は、船舶校舎(現 A6 棟)南東にあった空き地テニスコート(現 A6 棟と A5 棟の間)で、まだゴルフのパター練習に熱中されていました。昭和 47 年の冬と記憶しておりますが、夕刻に突如として船舶校舎の 1 階廊下で異音が響き渡りました。廊下に出ると先生が歩きながら中古のバイオリンを弾かれており、当時はとても耐えられる音ではなかったのご遠慮いただきました。その際、先生がおっしゃられたのは「家で弾くと怒られるから」と。その 1 回限りで、船舶校舎での演奏会は終わりにになりました。日本造船学会 100 周年記念祝賀会(1997)で皇太子時代の今上天皇との演奏会も催され、晩年の先生の名刺の如く「ヴィオラ奏者」になりました。何かに取り組みば、粘り強く一生懸命に愚直にコツコツとものにする姿勢を教えられました。「それが好きな人ではなく、それを楽しんでいる人が、物事の一番上手な人、一番知っている人」や「面白いと思うためには、自分が本当に賭けないと、絶対にそうは思えない。」の考え方です。

また、4 回生のある日、帰宅の際に曳航水槽を覗くと先生が一人で計測をされており、曳引車運転のお手伝いをするようになりました。当時の曳引車の速度保持は変圧器を利用した人間制御で、一人で計測することは困難でした。計測は、船の周りの流場解析に用いる五孔管の校正でした。当時の私には知識がなく、何のための計測かお聞きしましたところ、試験終了後に「読めば分かる」と P. C. Pien: FIVE-HOLE SPHERICAL PITOT TUB のコピーを渡され、勉強した記憶があります。状況観察と的確な資料とがあれば、知識の習得は本人の「なぜ」を解決する熱意によるとの考え方で、「耐航性シンポジウム」や Boundary-Layer Theory の輪講でも同じで、学問に対する個性を尊重されていました。

姫野先生はご逝去されましたが、私の心の中には常に恩師としておられます。「岩崎、頑張ってるか」、「結構、結構」と励まして頂いています。だから、さよならは言いません。



1973 年 2 月

# 追悼 姫野洋司 名誉教授

大学41期 片山 徹

本学名誉教授 姫野洋司先生は、令和2年8月18日に逝去されました。享年78歳でした。

姫野先生は、昭和16年に大阪市に生まれ、昭和44年に大阪大学大学院博士課程を修了し、大阪府立大学工学部助手に着任されました。昭和46年に学位(工学博士)を取得し、同大学で講師、助教授を経た後、昭和60年に教授に就任され、船舶工学分野における教育・研究に従事して多くの優れた技術者、研究者を輩出し、我が国の造船学、造船技術の発展に貢献されました。本学では、総合情報センター一長を務めて早くから情報通信環境を整備するとともに、多くの学内委員会の委員長などを歴任して大学運営に尽力されました。平成14年には副学長に就任され、大阪府立三大学統合(大阪女子大及び大阪府立看護大学との統合)ならびに同大学の法人化に尽力され大学の発展に大きく貢献されました。平成17年に定年退職され、名誉教授になられました。

船舶工学に関する学外における活動では、ITTC(国際試験水槽会議)の第19期 Resistance and Flow Committee(抵抗推進性能委員会)委員長、関西船舶流体力学研究会(KFR)第4代会長、日本造船研究協会第229研究部会(SR229)部会長を歴任し、学会運営においては理事を4期務められ平成14年には関西造船協会の会長に就任されました。この時は造船3学協会(日本造船学会、関西造船協会、西部造船会)の統合に向けた取り組みの中心として尽力され、平成15年に統合協定締結を実現させて、現在の日本船舶海洋工学会設立及び発展の礎を築かれました。

粘性流体力学における研究分野では、乱流境界層理論を船体まわりの流れに適用するための基礎的な研究や3次元境界層の実用的な計算法の確立に貢献し、大胆な近似解法を提案して船体にかかる粘性抵抗の様相を理論的に解明し、造波抵抗における粘性影響なども明らかに出来ることを示されました。これらの功績が高く評価されて関西造船協会賞(昭和49年)、日本造船学会賞(昭和51年)を受賞されました。さらに、近い将来計算機の性能が飛躍的に向上することを予測し、時代を先取りする形で数値流体力学(CFD)に研究の基盤を移し、新しい乱流モデルを提案するなど基礎的な問題に取り組むと同時に、その結果を使った船型最適化を行う応用的な手法など、常に先進的な研究に取り組んでこられました。



船舶流体力学の研究分野における国際化や、若手研究者の育成にも尽力され、1985年には International Colloquium on Ship Viscous Flow を開催し、1991年には KOJAM (Korea-Japan Joint Workshop on Hydrodynamic in Ship Design)、2002年には Asia Maritime Forum を開催して PAAMES (Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies) の設立に貢献されました。先生が先導された多くの国際会議は若手研究者によって引き継がれて継続され、現在の発展に寄与する数多くの試みを実現されました。

私は平成元年入学で、学部でも大学院でも(科目名は忘れましたが)姫野先生の流体力学関連の講義を受けるとともに、博士論文の副査を担当頂きました。大学就職後は、研究室が異なったこともあり直接研究指導いただく機会はなかったのですが、1996年韓国(大田)で開催された国際会議への往路で一緒した際に、金浦空港で大田行きバスを待つラウンジで昼食(ビールも)後(しながら)に発表を見ていただきました。私にとっては初めての英語での発表だったので、かなりの緊張でグタグタだったのですが、発音から丁寧にご指導を頂いたことを懐かしく思い出します。

ここに、故人のご功績を忍びつつ、謹んで哀悼の意を表します。



金浦空港にて

# コンピューターのユーザーだった姫野先生

大学 17 期 奥野 武俊

## 学科のアカデミックな雰囲気

大阪府立大学に大学院修士課程が設置されたのは 1957 年であったが進学する学生はほとんどなく、大学院生による活動は活発ではなかった。ところが 1968 年に博士課程が設置された頃から増えはじめ、学生による研究が盛んになり、学科のアカデミックな雰囲気は徐々に変わってきた。卒業研究発表会が行われるようになり、学会への参加も増えた。それは、1969 年に阪大から若い先生が府大に赴任され、大学院生との交流が行われるようになったことも影響していたと思われる。その若い先生が姫野先生であった。

当時の大学院生は、みんなで集まって頻繁に「輪講」をした。いわゆる学生の自主ゼミで、数学、力学などの古典書や、Hughes、Havelock の論文などを皆で読んだ。学生達のそのような姿を見て、姫野先生はよく顔を出し適切なアドバイスをされ、充実した学びとなっていた。そんな時、大学に計算センターが作られて TOSBAC-3400 という計算機の運用が開始された。CPU は 16 ビットであったがメモリはわずか 4K。今から考えると本当に小さなマシンであったが、我々にとっては大きな事であった。学科にはリーレー式の計算機や振動方程式を解くためのアナログ計算機はあったが、様々な計算を簡単なプログラムを作って出来るという事は驚きで、姫野先生から FORTRAN を学んだ。先生はご自身の研究で Navier Stokes 方程式を Assembler で解いたことで有名な方であったから、コンピューターのことを先生から学んだことは刺激的であった。

## 計算機のユーザー

小生の計算機との付き合いはここから始まったが、あれからわずか 50 年。歴史を変えるような IT 技術の進展スピードは凄まじいと思う。計算センターにあるマシンをバッチ処理で行う計算が当たり前になると、多くの人の計算を効率的に行う TSS (Time Sharing System) が使われるようになり、研究室に置かれた専用のマシンから計算センターの計算機を通信で制御できるようになった。そのためのデジタル信号はアナログの搬送波に載せて、音を使って行われた。“音響カプラ”という機器を知っている方の年齢は私と同世代かもしれない。

通信のできる計算機は高価で台数が少なく、便利

なだけに計算を希望する人は計算機の前で順番を待つことになってしまう。丁度そのころ、安価なパソコンが売り出され、その中の NEC8001 には他の計算機と通信できる機能があった。姫野先生はこれに目をつけ、大型計算センターとの通信に使いたいと申し込んだ。しかしながら、高価な計算機を当たり前に使っているセンターの人は、パソコンは“おもちゃ”だと考えて相手にしてくれない。そこを粘り強く説得して、NEC のパソコンをセンターに持ち込んで接続させて、やっと許可を得ることに成功した。それから研究室からの通信が簡単に行えるようになった。しかしながら単純な BASIC 言語で動くパソコンのシステムは十分ではなかったので、より便利な通信プログラムを作る必要に迫られ、機械語を直接書き込んだ通信プログラムを作った。小生にとっては大変なことであったが、Assembler を駆使していた姫野先生と一緒に考えることは、計算機の仕組みを考える上で非常に興味深い時となった。

## 新しい事には積極的にチャレンジ

新しいことを何でも積極的に取り入れようとする姫野先生に大きく影響され、インターネットが始まるとすぐに WS (Work Station) を導入して海外との通信を実現したり、研究室に隣接していた変電室に来ていた光ファイバーを使って、学内で最初に光ファイバーによる通信を開始した。また、学生全員に学科独自の E-mail アドレスを与えて話題となったのは船舶工学科 (海洋システム工学科) であった。

情報工学科と呼ばれる学科が無かった時代から、大型計算機のユーザーとして活躍し、計算センターのあり方に貢献したのは船舶工学科で、FEM (Finite Element Method) や数値流体力学の計算をするために京大や阪大の大型計算機センターまで通っていたのは船舶工学科の大学院生達であった。そのような時代から、大学だけでなく造船所でも大型計算機を船舶の製造現場や管理に使ってエンジニアリング技術を開発してきた。今では当たり前のことであるが、かなり早くからこの計算機を単なる“計算機”では無く、情報処理機と考えていたのだった。多くの大学の計算センターを引っ張ってきた方には船舶工学科の出身者が多いと言われていたが、そのような“造船”の気風があったためと思われる。その中の一人が姫野先生であった。

# 姫野先生を偲んで

大学 21 期 池田 良穂

姫野先生が府大に赴任したのは、私が入学した年でした。当時は、学生運動がまだ盛んな時期で、府大の経済学舎も市大と桃山大を中心とするセクトに占拠されるといった物々しい雰囲気の中での学生生活の中で先生と出会うこととなりました。まだ授業を担当されておらず船舶工学演習で指導を受けるくらいでしたが、懇親会等でお会いした時の印象は強烈でした。

4年生になって、第4講座に配属されて、直接の研究指導を受けることになりました。当時の第4講座は特殊船担当の講座で、田中教授、姫野助教授、奥野助手、永井助手の教員体制でした。私は、卒業研究として船舶の境界層の研究を選択したため、姫野先生の直接の指導を受けることとなり、2次元乱流境界層をエントレインメント法を用いてコンピュータで解くという課題に取り組みました。当時は、いろいろな境界層のモデルが提案されていて、それぞれのモデルがなぜできたのかを解説してもらい、論理的に考える習慣を叩き込まれました。大学院でも、船舶の境界層の研究をしようと考えていましたが、突然、テーマを変えるようにとの天の声がありました。どうも、教授と助教授との勢力争いに巻き込まれたようでした。

こうして、大学院では船舶の横揺れ減衰力の研究に取り組むことになりました。この分野では、田中教授の実験的研究が海外でも高く評価されていました。ここに、4年生の時に姫野先生から学んだ論理的思考を応用することを研究テーマに据えることにして、研究指導も田中先生と姫野先生の2人から受けることになりました。

とてもありがたかったのは姫野先生が、いろいろな場に連れて行ってくださったことでした。特に全国的研究プロジェクトであるSRに委員として連れ出してくれたことは、まだ、学生だった私にとっては、とても刺激的なものでした。また造船学会の第2部会や関西造船協会のKFR等で研究発表をさせていただくことは大いに励みになりました。

先生との飲み会も楽しみでした。梅田や難波の行きつけの飲み屋には、姫野先生専用のボトルにノートがかけられており、そこには一緒に飲んだ研究者のメッセージがたくさん書かれており、交友の広さに驚かされたものです。このボトルは勝手に飲んでよいということになっていましたが、ボトルが空になったら新しいボトルを入れておくというのがルールでした。そし

て、そのボトルはいつも「サントリーの角」でした。

博士課程を終えると、菱田教授の第2講座に助手として採用されました。当時は、菱田教授、平野講師、定兼助手、高松助手の体制でした。第4講座も兼務ということで、両講座の学生の指導もすることになりました。この頃、姫野先生はアメリカのミシガン大学に留学されました。そして、戻ってきた先生はすっかり国際派になっていました。そして、「池田君、今からは自分の研究を世界に発信する時代だよ!」と言って、日本語の論文を全部英訳して、ITTC(国際試験水槽会議)に登録している全世界の船舶系の大学・研究所に配布するようにとの指示を受けました。急いで全文を英訳し、府大の生産技術センターで印刷・製本してもらって発送しました。

そして、研究成果は積極的に国際会議で発表するようにとも勧められました。こうして、パリで開催された国際会議に、先生と連名で論文を提出して採択されました。てっきり一緒に行ってくれるものと思って安心していたのですが、航空券の手配の段になって「僕は行かないよ」との一言。初めての国際会議での発表を一人ですることになりました。発表自体は十分な準備をして臨んだものの、会場からの質問はまったく理解できず、「サンキュー、サンキュー」だけを連発して冷や汗をかきながら降壇しました。その後、会場にいた親友のパパニコラウが、「あの質問は、君の論文に対する質問ではなく、昨日、発表された論文の内容を粘性の専門家としてどう思うか」という質問で、「分からなくて当然だよ」と慰めてくれました。苦い経験ですが、その後の糧にはなりました。



退職記念送別会で花束を受け取る姫野先生

菱田先生が退職して、姫野先生が第2講座の教授となり、私は1年後には古巣の第4講座に戻りました。そして田中先生が退職した後、第4講座の教授には奥野先生が就任されました。その後、工学部の再編で海洋システム工学科に教授ポストが増員されて、研究室を任されるようになりました。その頃には、姫野先生と一緒に研究する機会はなくなりましたが、新しい物好きの性格はいつまでも続いていたようです。

退職されてからは、めったに学科にお見えになることはありませんでしたが、副学長時代に大学発ベンチャーとして立ち上げた(株)フダイにはよく手伝いに来られていたようです。

私の退職が迫ったところに、突然、先生から1本のメールがあり、大阪経済法科大学の授業を担当して欲しいかとの依頼でした。阪大での後輩にあたる呉先生が学長特別顧問をされており、代々、鈴木先生、姫野先生、内藤先生が、海運や水産、エネルギーに関する授業を担当していたのですが、授業定年になるのでそれを引き継いでもらえないかとのことでした。その後、同大学の研究センターに研究室を頂いたこともあり、同センター主催の研究会で、年数回は顔を合わせていました。最後にお会いしたのは2年前の冬。テーマは先生の得意分野の「AI」で、研究会の後の食事会でも楽しそうなお顔でした。

ご冥福をお祈りいたします。

## 大阪府立大学工学部 鷗朋会 第69回理事会報告

第69回理事会は、新型コロナの影響により書面審議にしました。

審議期間:2020年11月12日～2020年11月30日 回答者:29名

岩崎会長(大20期)、藤原副会長(大24期)、大塚副会長(大35期)、城野(大8期)、岡田(大12期)、小幡(大12期)、斎藤(大14期)、定兼(大15期)、大西(大19期)、松本(大19期)、池田(大21期)、東田(大28期)、三宅(大30期)、吉野(大36期)、有馬(大37期)、坪郷(大39期)、猪原(大40期)、片山(大41期)、牧野(大41期)、漆原(大44期)、中谷(大45期)、黒田(大51期)、谷口(大56期)、生島(大57期)、宮本(大60期)、山本(大66期)、勘角(大67期)、山上(大67期)、谷(大68期)(以上29名 敬称略)

資料:第1号議案 2019年度会計報告書 会計監査報告

第3号議案 2020年度会計中間報告

第5号議案 新理事推薦について 鷗朋会役員名簿

第7号議案 会費滞納候補者について 説明資料

第2号議案 編集委員会報告

第4号議案 会費免除会員(永久会員)について

第6号議案 2021年度予算案

審議結果:回答者全員の賛成により可決されました。

収入の部		支出の部	
摘要	決算	摘要	決算
前期繰越	898,431	振込手数料	64,020
		通信費	292,016
同窓会会費	1,372,000	役務費	630,560
理事会会費	0	事務費	59,258
		印刷費	133,506
雑収入(利息)	2	会議費	4,417
		雑費	0
証書ホルダー代金	8,121	HPアルバイト	10,000
同窓会活動支援金	147,000	データベース更新アルバイト	22,000
退職記念会残金	19,321	卒業記念品立替	50,000
寄付			
小計	1,546,444	小計	1,265,777
		次期繰越	1,179,098
総計	2,444,875	総計	2,444,875

収入の部		支出の部	
摘要	予算	摘要	予算
前期繰越	1,308,635	振込手数料	90,000
		通信費	302,400
同窓会会費	1,200,000	役務費	635,264
理事会会費	50,000	事務費	80,000
		印刷費	119,206
		会議費	50,000
		HPアルバイト	10,000
		データベースアルバイト	40,000
		雑費	10,000
小計	1,250,000	小計	1,336,870
		次期繰越	1,221,765
合計	2,558,635	合計	2,558,635

### 訃報

大学 1 期 森井 春生 氏 (2020年7月)  
 大学 8 期 宮崎 正博 氏 (2021年2月9日)  
 大学 9 期 坂根 武 氏 (2018年6月)  
 大学 24 期 大西 喜八郎 氏 (2020年11月18日)  
 大学 30 期 竹田 太樹 氏 (2020年10月24日)

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

# 辞書と万年筆と苦い薬湯：姫野先生が遺してくださったもの

神戸大学 西尾 茂

## 苦い薬湯

私が府立大学に赴任したのは、1988年(昭和63年)でした。今から思えば、姫野先生は未だ40代半ばであり、私が府立大学で勤務した10年余りの期間、姫野先生が研究者として最も充実した時期でした。私は阪大の博士課程を終えたばかりで、学生から独歩できる研究者／教育者への階段を登り始めたところでした。そのような時期の私には、当然、至らない部分が沢山あり、姫野先生から厳しい指導を受けたことは1度や2度ではありませんでした。当時の私の窮地は、その頃の姫野先生をご存じの読者の方々には、想像は難くないと思います。ただ、それから30年以上の時を経た今、当時の苦い経験は静かに沈殿し、手元には、上澄みのように、学者としてのワークスタイルやライフスタイルが残っています。苦い薬湯が、穏やかに効能を発揮しているように思います。

## 辞書を引く

姫野先生からは、論文の書き方から学問との向き合い方までのA to Zを教わりました。英文論文を始めて執筆したのも、姫野先生の指導の下でした。当時、やっと学位を取得したばかりの助手であった私の研究能力は稚拙であり、片や姫野先生はITTCのResistance and Flow Committeeの委員長を務め、世界をリードする研究者でありました。英語はもちろんのこと、論理思考アプローチも文章構成能力も、力量の差は歴然でした。そんな私に論文執筆を指導する際、姫野先生は必ず辞書を開き、しかも二人で辞書を眺めながら、理由と根拠を明らかにして、論文を修正してゆくのです。決して、「勘(直感)」で指導をすることをしませんでした。学問に対して謙虚に向き合い、過信をしないこと。豪胆なイメージの強い姫野先生ですが、論理的であり、緻密な思考は、このような姿勢に支えられていたと理解しています。



出典: ebay、<https://www.ebay.com/>

## 新しいものが好き・・・その先へ

姫野先生は、新しいものが好きでした。本当に「好き」だったかは怪しく、好奇心が旺盛だったただけなのかも知れません。「ネットワークの研究を始める」と言い出された時には面喰いしましたが、常に先を見て、誰よりも早く試してみたいという衝動は純粹でした。「不確かさ」の研究を始めないかと提案頂いた時も、「ネットワーク」の時と変わらず『また突拍子もないことを・・・』という印象が強かったです。いわゆる「計測誤差」に関する研究を持ちかけられたのですが、一体何を研究するのだと途方に暮れたものでした。当然、先行研究は殆ど見つけられず、アメリカ機械学会発行の規約(翻訳版)を唯一の頼りに勉強を始め、1990年に抵抗試験に関する共著論文を発表しました。その後、私の研究はPIV(粒子画像流速測定法)の開発に軸足を移し、その過程で不確かさの評価の必要性を世界に広める活動に没頭しました。2000年にはPIVの標準画像(Standard Image for PIV)を提案した英文論文を発表しましたが、この論文は20年経った今でも引用が続いており、私の代表的な研究成果の一つになりました。そして、不確かさの研究は私のアイデンティティの一部として根付き、今も研究を続けています。姫野先生がどこまで見通していたかは不明ですが、「遺す」とことは、かくの如き行為だと思うのです。

## 赤い万年筆

姫野先生は、万年筆を使って難解な数式を練り、思索をしていました。細身のモンブランに黒インクを入れて、愛用しておられました。深く考える事、書いて思索を確かめる事、そして軽率に判った気にならない事を実践しておられた。休日を一杯使って思索をまとめた資料を手し、嬉々として話をなされたことを思い出します。難解な数式は忘れてしまいましたが、嬉しそうに話をされるお姿は、鮮明に覚えています。今にして思うと、理解の追いつかない若造を相手に、さぞ悔しい思いをしておられたことでしょう。そのような先生の気持ちや、ようやく分かる歳になりました。考える喜びを分かち合いたいと思うのです。

姫野先生、逝かれるのが少し早かったですね。定年退職の報告をして、「爺ちゃん」同士で、新しい事物についての評論を交わしてみたかったです。私は、もう少し頑張れそうです。苦い薬湯の効能は、今も私の活動を支え続けています。



# 姫野先生の思い出

大学 37 期 和田 哲

卒業以来すっかりご無沙汰している私に、声が掛かったのか全く理解できないでおります。お断りしようも思ったのですが名前が挙がったのも何かの縁、もしかして天国の姫野先生の差し金かと思い直し、お引き受けすることにしました。

4 回生になって研究室を選ぶ際、姫野研究室(当時は第 2 講座と呼ばれてました)は厳しいぞという先輩からの情報があり、同期の間では一番不人気でした。私はそれでも姫野先生の元で数値流体を学びたくて、第 2 講座の門をたたくことにしたのでした。いざ入ってみると確かに研究に対しては厳しいところもあり、えらいとこに来てしまったと思ったこともありました。が、実際は温かさや一体感を感じられるひとつのチームのようなそんな雰囲気の研究室でありました。

数値流体の研究は姫野研究室の大きな柱でしたが、もう一つ曳航水槽を司る研究室でもあります。実験や水槽のメンテナンスでは研究テーマ区別なく駆り出され、研究室総出で対応しました。先輩方はみなてきぱきと作業をこなし、おそろいのつなぎを着て様になっていました。そうしたところから家族のような一体感が生まれていたのでしょう。

論文のレビューで激論を交わした(というか厳しいご指導をいただいた)研究室のミーティングテーブルは、夕方になるとお皿とコップが並べられて飲み会となることも度々でした。打ち上げだー、お客さんだー、と言っては飲み会が始まり、時には姫野先生みずから魚をさばいてみなに振る舞ったりし、大いに杯を酌み交わしました。この時お聞きした姫野先生の若い研究者の時分のご苦労話や海外出張の時の失敗談など、今でもよく覚えています。

ある日、研究室に EWS(エンジニアリングワークステーション)がやってきました。西尾先生やマスターの先輩方が、苦労して導入作業をされていました。EWSとは文字通り技術計算を専門とした、パソコンより高性能なコンピュータです。とは言え 30 年以上前のことですから、皆さんがお持ちのスマートフォンのほうがずっと性能が良いのですが、当時は、やっと自分のところでも数値計算ができるようになると大いに期待をしていました。ちょっとした規模の計算では外部のコ

ンピュータに電話回線で接続して使うのですが、その時のスピードが 2400bps でした。今のファイブ G はギガクラスのスピードが出ますから、比べると 100 万分の一です。ちょっとした計算結果をダウンロードするのに一晩かかっていたものです。

ある晩、私がバイトを終えた後ふと研究室に寄ってみると、EWS の前で姫野先生が座ってなにやらぱちぱち打ち込んでおられます。どうやら学生が使わない夜に、新しい EWS の操作を習得するため一人でいじっていた様子です。まるでおもちゃを与えられた子供のように、とても嬉しそうな表情をされていたのが印象的でした。EWS を導入することができて一番うれしかったのは、若いころから数値計算の研究で苦労された姫野先生ご自身だったんですね。

姫野先生はもちろん研究者としてまた教育者として素晴らしい業績を残されましたが、一人の技術者としても一流で、偉大なエンジニアだったのだと思います。現場を大事にして自ら手を動かしチームを引っ張り、現実と科学を結び付けて新しい技術を生み出し未来を切り開く、そんな素晴らしいエンジニアでありました。私が技術者人生を姫野先生のもとで始めることができたのは、とても幸せなことだったと改めて思いました。

卒業して数年後に一度だけ、ふらっと大学にお邪魔したことがあります。研究室に顔を出すと、姫野先生もおられて例のミーティングテーブルで少しお話をすることができました。私が自動車会社でも船外機の開発をやっているとお話をしたら、お前も船関係をやっているのかと、とても喜んでおられました。すでに当時の姫野先生のお歳を超えた今、先生に喜んでいただけるようなエンジニアになれたでしょうか。現世でお聞きすることは叶わなくなりました。その答えはあちらでお会いするまでお預けです。そのときは先生の好きなお酒を携えていきましょう。

姫野先生、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。



# 姫野洋司先生を偲んで

大学 42 期 御手洗 哲司

僕が大阪府立大学に入学したのは 1990 年。その当時、船舶海洋工学科の学生の間では、姫野先生率いる第 2 講座は厳しいとの専らの評判でしたが、愛用の万年筆を手に、流体力学の数式を華麗に操る姫野先生の学者然とした姿は、20 代の若者にはとても格好良く写り、それは僕が第 2 講座を志望した大きな理由の一つとなりました。1993 年に晴れて第 2 講座のメンバーに加わり、その後、修士課程まで進学し、3 年間、姫野先生からご指導を賜る機会に恵まれました。

僕が大阪府立大学に在籍していた頃は、姫野先生といえば、怖い、厳しいとの印象を持っていた学生がほとんどだったと思います。姫野先生が亡くなったとき、同級生の一人が口にしたことは「厳しかったことした覚えていないな」でしたし、後輩の中には、時に厳しく指導を受けていたものがいたことも記憶にあります。ただ、姫野先生のすぐ近くで接する機会があった学生は少なからず違った印象を持っていたと思います。

確かに、ややぶっきらぼうな感じはありますが、教育熱心でむしろ優しく印象を持っています。僕自身は怒られたこと、厳しいことを言われたことは記憶にありません。なかなか群速度を理解できない僕のために、曳航水槽で丁寧に説明を重ねてくれた姿をよく覚えていますし、研究発表後に暖かいお褒めの言葉を頂いたことも忘れられません。卒業の挨拶に伺った際にも、よく頑張ったと労っていただいたことは大きな自信になりました。

大阪府立大学を卒業し、水産庁の研究所に就職した後は、自分自身の若気の至りのせいもあって、姫野先生にもご迷惑をおかけすることがありましたが、

苦言を呈されたことはありませんでした。米国留学のために水産庁を退職し、その挨拶のために姫野先生を大学まで訪ねた際には「わざわざ挨拶に来るゆうから、そんなことやと思ったわ。せっかく行くからには頑張ってこい」と姫野先生らしい口調で励ましの言葉を頂きました。最後に一言「ケンカはするなよ」と付け加えられました。僕の悪い癖をよく理解しておられたのだと思います。

僕が第 2 講座に加入した当時、姫野先生は 51 歳だった計算になります。今年、僕も同じ歳になることを考えると、感慨深いものがあります。自分自身も姫野先生と同じく、大学教員となり、流体力学を教え、学生やポスドクの研究指導をする立場になりました。指導者としての姫野先生の当時の姿を思い出し、参考にすることがあります。僕が修士課程の学生だった頃、学会会場から駅まで皆が徒歩で移動している際、おそらく企業の方だったと思われませんが、姫野先生に駅まで車でお送りしますと声をかけられることがありました。しかし、姫野先生は「僕は教育者なので、どんな些細なことであっても、便宜を受けるわけにはいきません。せっかくですが辞退させていただきます」と丁重に断られていました。今も時折思い出し、襟を正しています。

日本帰国後は忙しさを理由にご挨拶に伺えなかったことが心残りです。インターネットをその黎明期から駆使してこられた姫野先生らしく、Facebook でご連絡をくださりました。帰国を喜んでくださり、近況のご報告をさせていただくことができましたが、できれば直接お会いして、色々とおアドバイスを頂きたかった。ご指導いただいたことを活かしつつ、あと 20 年頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。

## 姫野先生の思い出

院卒 沖本 憲司 / 大学 45 期 松山 博志 / 大学 45 期 山中 亮一

### 1. はじめに

一昨年 5 月の田原先生を偲ぶ会では、姫野先生もご出席・ご挨拶され、非常にお元気でいらっしゃいましたが、昨年の姫野先生のご訃報に接し、心よりお悔やみ申し上げます。

今般、執筆の機会を頂きましたので、1993 年に海洋システム工学科に入学し、1996 年から姫野研究室にお世話になり研究に着手した 3 名にて、社会人となった現時点からの視点も含めて姫野先生との思い出をそれぞれ述べさせていただきます。

## 2. 姫野先生との思い出

### 2.1 沖本 憲司

私は、2001年に博士課程を修了し、同年に国交省に入省、同省海事局・航空局・自動局、文科省・外務省・環境省を歴任し、2020年7月から経産省所管の日本貿易振興機構ヒューストン事務所に勤務しています。

姫野先生との思い出は、私が学部3回生時に大学院受験挑戦を姫野先生に相談した際に、“挑戦すべし”と明言され迷っている私の背中を押してくださり、結果的に受験を決断したことです。大学院受験面接時には、姫野先生から博士課程に進むべきとの助言を頂いたことで決心して博士課程に進みました。このように今から振り返ると、私の進路の意思決定に対する姫野先生の影響は多大であったと思っています。

研究では、姫野先生からの的確なご指導・お叱りを受け、また田原先生から様々なご助言を頂き、研究室の先輩・同僚・後輩と切磋琢磨し、研究に励み、博士課程を修了できたことは本当に幸せだったと思っています。

大学祭時のサッカー大会では、姫野研究室中心の人員で出場(チーム名は「姫野マリンユナイテッド」)し、順当に勝ち進み、他研究室の人員とも絆が深まり、今でも懐かしく、楽しい思い出の一つです。

このように、学生時代に得た知見・熱意・考え方は、社会に出てからも生かされていると実感することが多く、姫野先生を含めた先生方、共に学んだ先輩・同僚・後輩に感謝しています。

### 2.2 松山 博志

私は1999年に修士課程を修了し、ヤンマー(株)に入社、研究所での農業機械や建設機械用トランスミッションの研究開発業務を経た後、現在は建設機械の開発業務に従事しています。

姫野研究室では4回生の時にアメリカズカップ艇の研究、修士課程では船尾形状最適化研究について、姫野先生と田原先生からご指導していただきました。4回生の時は回流水槽での可視化試験など実験研究が多く、また修士課程では主にパソコンでの流体解析と、机上、実物両方の研究に取り組ませていただきました。これらの経験は、社会人となった後も役に立っています。

当時私は日々の研究の相談やご指導を田原先生にさせていただきながら、ある程度まとまった段階で姫野先生に報告していました。理解が浅かった時や、論理的に説明できない時には厳しく指導されますので、報告のために先生の部屋の扉をノックする時は、気が引き締まる思いをしていたことを憶えています。



田原先生を偲ぶ会にて姫野先生ご挨拶  
(2019年5月)

このように教育に関しては厳しかった先生ですが、昼には私達がいる研究室にお決まりのカップラーメン片手のスタイルで来られ、世間話をされる気さくな面もお持ちでした。姫野研究室は先輩、後輩の仲が良く、とても雰囲気の良い研究室でしたが、それは私達に目を配られていた先生のお気遣いがあったからこそと改めて感じます。

現在私は船舶とは違う分野の技術者をしていますが、姫野先生の研究に対する熱心なお姿や、周りを気遣う思いやりの心は見習うべき所が大きく、先生にご指導いただいたことは幸せであったと思います。ありがとうございました。

### 2.3 山中 亮一

姫野先生から毎日のように「あかん、あかん、もっとチャレンジせなあかん！」と熱いご指導をいただきました。出来の悪かった私ですが、現在では大学教員(徳島大学)をさせていただいており、姫野先生にご指導いただいた当時のことをよく思い出します。姫野先生は常に基準がブレることなく、至らないことを包み隠すことなくご教示くださいましたが、これは大学教員としての「胆力」がなければ出来ません。学生の価値観に迎合することなく、学生の成長を信じて真正面から胸を貸して下さっていたのだということが、今となっては分かります。学生への愛情の注ぎ方、ブレない基準、学生の成長を信じる勇氣、新しいことにチャレンジする姿勢、これら姫野先生から学んだことが、私の教育者としての礎になっていることは間違いありません。

私自身が青春を拗らせていた時期があり、失礼な振る舞いをしてしまったこともありましたが、しかし卒業後に(他大学からの)博士号授与の報告のためにご

挨拶に伺った際には、学生時代の非礼を快くお許しください、大学人としての生き方を実直に語っていただいたことは、今でも忘れることはできません。

突然の訃報にふれ、大きな柱を失ったことの動揺は今でもあります。姫野研究室の卒業生であることを誇りに、これからも高い目標を持って一生チャレンジを続けていこうと思います。本当にありがとうございました。先生は大学のみならず、人生の師匠です。

### 3. おわりに

冒頭でも触れた通り、社会人となった現時点からの視点も含めて姫野先生との思い出をそれぞれ述べて頂きました。

姫野先生には改めてお悔やみを申し上げるとともに、姫野先生の教え子として、それぞれの立場で、引き続き精一杯努力を重ねて参ります。



海洋システム工学科での撮影風景(1999年3月)

## 姫野先生との思い出

姫野先生との思い出を語るにあたって、出会いから振り返りながら書くことにしました。オーラルな内容と個人的な内容とが混じった文章となりますが、率直は想いを綴りたいと思います。なお、記憶違いがありましたらご容赦ください。

私は、4回生の研究室配属で姫野研究室を一番に選びました。厳しめの研究室として聞いていたこともあってか第一希望が少なく、私は希望通りに配属が決まりました。(当時は姫野・田原研究室と呼ばれていました。)

研究室選択の決め手は、3回生の時に受講した姫野先生の授業でした。先生は、学生が使う机と席を使い、学生側を向いて席に座りながら、難しい学問をわかりやすく、ポイントをついて解説されていました。私は、大学の授業の中でも面白い授業の一つと感じ、流体力学という学問を姫野先生のもとで学びたいと思いました。

私たちの学年は、姫野先生にとっての最終学年であったこともあり、私の研究については勝井先生がメ

インで指導してくださりました。しかし、月に数度あるセミナーでは、報告内容に対する的確な指導があり、私も含め研究室の同期の面々は毎回唸っておりました。独特の語り方は印象的で、失礼ながら、その語り口を学友たちとよく真似させてもらっておりました。

よく飲み、よく食べ、よく学び、よく遊ぶ(学生としての順番は違うようにも思いますが)そんなことを語らずとも教えられたように思いますし、温かく見守ってもらっていたように思います。そんなこともあり、大学院まで続く研究室生活は、厳しくも楽しく、人生の中でも代え難い経験を与えてくれました。好きなように研究させてもらい、好きなことをいろいろとやらせてもらいました。

個人的に最も印象的な出来事は、就職決定の報告をしたときのことです。三菱重工からの合格通知が来たので、姫野先生に「三菱重工に合格しました。設計希望だったのですが、横浜の修繕部に配属されました。」と報告すると、「修繕と言えば現場やな。君には合ってるんちゃうか〜。」という言葉をいただきました。



研究室の懇親会



学科の暑気払い

た。希望と違う結果に迷いがあったのですが、先生の一言もあり、就職を決めました。その時は、「ほんまかな？」と、失礼ながら思ってしまいました。今もなお働いていることからすると、先生は私の本質を見抜いていたのだと思っています。そんな風に今までの卒業生のことも見ておられたのだらうと思ひ、このやり取りのおかげで今の自分があると思うと、思い返すたびに目頭が熱くなります。同じ会社の先輩にも姫野研究室の方がおられるのですが、学生時代の話になると姫野先生の話は常に出てきました。そのたびに、先生は同じようにして卒業生を送り出してきたんだらうなと思っております。

心残りなのは、姫野先生のお別れ会に参加できなかったことです。仕事の都合がつかなかったのですが、先生なら「まあしゃあないんちゃうか〜」とタバコをふかしながら、今なら言ってくれているのではないかと思っております。(今も精一杯頑張っておりますのでお許しください)

姫野先生との出会い、流体力学という学問や船に関する研究や知識との出会いがあり、今の自分があると思っています。私の活躍が先生に届くようにこれからも日本の造船業界に貢献していきたいと思ひます。姫野先生、ご指導ありがとうございました。



大学院卒業式後の研究室打ち上げ

## 鷗朋 31 号の表紙絵紹介「ウェーキ構造と姫野教授の一喝」

大学 16 期 山下 眞夫

### 人生訓の一喝

今から 25 年ほど前のことである。太田さん(当時の事務担当者)が教室に配属されてから数年たった頃であったと記憶しています。私が艦艇のウェーキ構造の研究に取り組んでから 5 年ほど経過した研究の最終段階の時、次の日が社長説明の日でした。

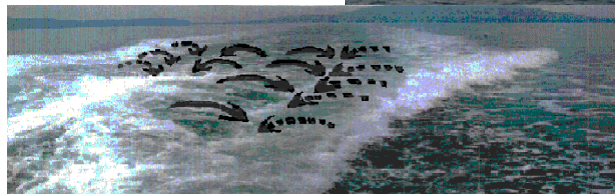
ウェーキ構造のイメージの中にグレーの部分の一点存在して、社長への説明に対する不安がどうにもぬぐえませんでした。意を決して、境界層理論の大家の姫野教授に電話をすることにしました。運にも見放されたようで電話に出られた太田さん、『姫野先生は教授会へ出席されており、今は不在です。』とのこと。

万策尽きた感ありでやむを得ず、過去に勉強した“Boundary layer Theory”の中の一つの数式を含んだややこしい質問を太田さんに口頭で伝えてメモ頂きました。太田さんは以前に何度か電話して聡明なことがわかっているし、置かれた状況は「はい、そうですか。では、後日に。」と悠長なことを言っている場合ではないと思ひ込んでしまい、止むに止まれずにお願ひしたものでした。数時間後、姫野教授から電話がかかってきました。いきなりの怒鳴り声で、「専門家でもない事務担当の女性に、おまえは何をさせるのだ！！」

社長を含め 30 人ほどの説明会を前にして、びびってなりふり構わず、他人のことを思いやることもなく身勝手な質問をぶつけてしまったことを大いに反省させられた一喝でした。

### 表紙絵「びわ湖・竹生島」のウェーキ構造について

防衛省の検討課題の一つに、音響送受波器の前を通過する艦艇が残すウェーキ中気泡が音響機器をマスクしてセンシングできないという問題があり、艦艇のウェーキ構造を研究することとした。その研究に関連した実船試験に供された艦艇の写真と 2 軸推進器が主の渦列の隣にもう一つの渦列を誘発して 4 渦列を造っている写真を示す。



### 鷗朋 31 号 表紙絵

今号の表紙絵「びわ湖・竹生島」は、神と仏の大伽藍を持つ島のおうらなを核に、遺跡と現実の空間を連絡船の航跡で結びました。



# 追悼

田口賢士 名誉教授



賜冊 30 号は、昨年に逝去されました田口賢士先生の追悼に同窓生の方々よりご寄稿頂きました。寄稿文を読まれた同窓生からも思い出話を送って頂きましたので、ここに紹介させていただきます。

編集委員長 三宅 成司郎(大学 30 期)

賜冊 30 号で、田口先生が 2020 年 4 月 30 日に亡くなられたことを知りました。先生がえらくなされた後の思い出がいろいろ出ていましたが、若かりし時の思い出を書き留めておきます。

小生、大学 6 期の卒業です。昭和 29 年の入学です。専門課程が始まる 2 回生になつとき、初めて田口先生にお会いしました。先生はまだ 20 代の第 1 講座の助手で、一番長い製図の時間を担当されていました。製図の時間は毎日あって、大きな図面をいろいろと描かねばなりません。特に、排水量計算はソロバンと手動計算機でやらねばならないため、ソロバンの足し算だけはみな 3 級くらいの腕は持っていました。Lines の fairing も、全部手で合わせねばならず大変でした。そのような集中力はそんなに長く続くわけではないので、すぐに外に出てソフトボールです。また製図台の大きさが丁度良いので、全員での卓球のリーグ戦も始まりました。時には田口先生も参加され、時折繰り出される横殴りのスマッシュを思い出します。こうして始めた卓球ですが 3 年前まで続けまして、製図の時間の先生やみななどの貴重な体験は本当にありがたいものだと実感します。

先生には、サマセットモームが『世界で最も知的なゲーム』と評したコントラクト・ブリッジも教えて頂き、その面白さにのめり込みました。それは、卒業後に入

った日立造船築港工場でも盛んで、土曜日に監督官室にやって来る NYK や OSK (現 MOL) の工務の連中の相手として入社早々の私も引っ張り出されるなどで続けていました。後年チュニジアへ JICA の仕事で派遣された時には大使館員のお相手もし、帰国前夜などは参事官夫妻と徹夜でお手合わせをしたものでした。定年後も日本ブリッジ連盟のポイント制のゲームに参加し、ポイントが貯まるほどに現在も続けています。田中紀男先生も、生前来られていました。

卒業後に田口先生とお目にかかったのは、<sup>(注)</sup>養成工の技能訓練生達を教えに先生が来社された時くらいですが、私が退職後にブラジルへ技術指導することになった時にメールのやりとりをしたこともあります。

生涯趣味の楽しみを与えてくれたブリッジと卓球との出会いは、田口先生との大きな出会いからでした。なお、卒論も先生のご指導でまとめました。

(注)

**養成工**:採用した中卒者に対して、工業高校に準じた企業内教育を行う制度で、1970 年代頃に衰退はしたものの続けている企業も多々ある。(井上様の談話として:「本来は企業の技術者が教えるが、高校卒の資格を与えることになるために、普通は工業高校の先生に依頼する。しかし、大阪には造船科のある高校がなく大学に依頼していた。」とのこと。)

大学 6 期 井上 博之

田口先生に関する思い出ですが、8 期生(35 年卒)の私の時は先生が第 1 講座の助手の時代で直接会話をすることや講義を受けることがなかったのですが、先生ですから記憶にはしっかりと残っています。以下に、2,3 の記憶を紹介します。

1. 当時、先生は第 1 講座の助手で、G.A. や Line 図の指導員をされていました。古い木造の建物だった旧 6 棟の 2 階の製図室で、いつも白衣で穏やかな表情で巡回されていました。製図室は船舶の学生のたまり場のような場所で、タイガー計算機の騒がしい音、トランプゲーム中の歓声など、学び舎としての教室の雰囲気とはほど遠い所でしたが、先生は怒ることもなく同じようにその雰囲気を楽しんでおられるように見えました。
2. 赤崎教授(当時 学長)の講義「船舶抵抗推進論」が、週 1 回ありました。その際、田口先生をはじめ池田

勝助手など多くの助手先生達が、学生に混じって受講生になっていました。真面目で真剣な表情に「先生でもか!」と、感じ入った記憶があります。

3. 先生は、劣等生だった私に 1 度だけ忠告をして下さいました。「なあ 向井よ。折角学校に来ているのだから、その時だけは真面目に問題を解き、図面を描いた方が自分の為になるよ。」と。その時はあまりにも当たり前のことでしたので気にも止めていませんでしたが、頂いた言葉はしみ入り、今も忘れずに心の中にしっかりと残っています。

その後、私は第 3 講座に入って岡村先生のところまで卒研を行なったため、田口先生とはすれ違いです。なお、余談ですが岡村先生ところでの卒研については、(賜冊 14 号 特集母校見学ツアー)を参照いただければ幸いです。

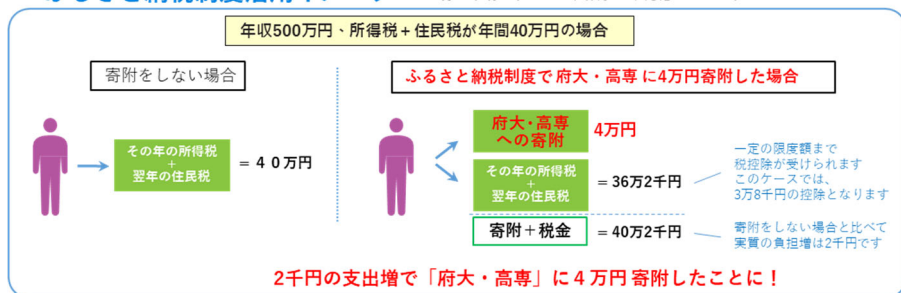
大学 8 期 向井 濱治

## 世界に翔け『つばさ基金』へのご寄附のお願い

「府大・高専基金」では、“世界に翔けつばさ基金”の愛称のもと、卒業生の皆さまにご寄附を募っております。昨年からのコロナ感染症拡大の影響による困窮学生のための「緊急学生支援」へは、卒業生の方々を中心に、たくさんのご寄附をいただきました、ありがとうございました。引き続き、府大・高専へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

寄附の方法としては、大学への直接寄附のほかに、大阪府の「ふるさと納税制度」もご利用いただけます。さらに寄附の用途をご指定いただくことも可能で、青春時代を謳歌された学生クラブ活動も対象になります。また、手続きが簡単なクレジットカードでのご寄附が可能です。詳しくは、最下のQRコードよりホームページをご覧ください。なお、「ふるさと納税制度」でのご寄附の場合、所得や家族構成により決まる限度額までのご寄附については、所得税・住民税の減免により、実質2000円のみのご負担となりますので、ご寄附いただきやすい制度となっております。卒業生の皆さまのご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

### ふるさと納税制度活用イメージ …分かり易くするため、数字を単純化しています



お申込みの際、「ご意見等」欄へご希望の“事業”や“支援分野”“項目”をご記入・ご入力ください。  
※できる限りご意向にそって活用させていただきます。

公立大学法人大阪府大・高専寄附金取扱細則第3条により、寄附金受入額に115分の15を乗じた額を基金事務に関する管理的経費とさせていただきます。

### 《ご寄附実績》

2019年度	622件	55,122,551円	
※うち卒業生より	219件	19,920,000円	<b>(金額比対前年 30%増!)</b>
2020年度12月末まで	826件	56,543,500円	
※うち「緊急学生支援」へ	103件	17,960,000円	



### 〈大阪府立〉大学創基140年記念事業』につきまして

2023年、〈大阪府立〉大学は創基140年を迎えます。この歴史を支えていただいた皆様への感謝を胸に、新大学へとさらに成長していくため、〈大阪府立〉大学の価値として継承・発展する記念事業を計画しております(同封チラシご参照)。詳細は、今後ホームページにて随時ご紹介させていただきますので、卒業生の皆さまのご参画を心よりお願い申し上げます。※つばさ基金では、〈大阪府立〉大学創基140年記念事業へのご寄附も募集しております。

○お問合せ先  
府大・高専基金事務局 担当 村上 和己  
電話 072-254-7620

